

陽明学関係書 紹介と短評

○岡田武彦著 『王陽明大伝 生涯と思想』(一)(二)(三)

〔岡田武彦全集〕2、3)

二〇〇三年四月、十一月。明德出版社刊。A5版、295、305頁。

(一)

第七章 竜場の大悟

第八章 竜場における講学

第九章 知行合一説

第十章 廬陵県知事

第十一章 京師における講学

(二)

第十二章 滁州時代の講学

第十三章 南京時代の講学

第十四章 南贛時代の靖乱

と講学

本誌の前号で(一)を紹介した際に、王陽明の哲学思想のもつ精神の精髓を理解するために、『王陽明出身靖乱録』のようなフイクションも用いて読者に訴えていることを述べたが、この(二)(三)も同様に、読んでいて飽かせない分かりやすさで話が進められている。特に、陽明学や思想の深さを説くため、そこには本筋から離れて、例えば竜場での教化について述べるに当たっては、明代の教育、書院教育と当時の教育状況にまで言及する。また『大学』の「親民」や「格物」解釈について述べるにも、朱子学における解釈の違いから、延いては良知説にまでわたっていくように、陽明学の考えを分かりやすく説かれるのである。そして

親しみやすくするため弟子との会話などを取り入れ、生き生きと描かれている。ここに先生が、専門の研究者やその関係ある人ばかりでなく、一般の人達に、陽明学を啓蒙し、一人でも多くの人に王陽明と陽明学の精神を普及したいという並々ならぬ気持ちが見える。

※『岡田武彦全集』(12・第3回配本)の『孫子新解』(2003年9月刊)

は、崎門学者山口春水の『孫子考』を中心とするものだが、この第四部は、「王陽明と孫子」であることを付言しておきたい。

○諸煥燦著『学津求索』

二〇〇〇年六月、中国戯劇出版社刊。B6版、429頁。

本書の著者諸氏は、長年余姚市の文物保護管理所に勤められ、王陽明と黄宗義を中心とする人と思想や事績、また遺跡等を、こつこつと研究されて発表している方である。現在は管理所の副研究員。本誌にも、以前(1994年)第6号に「王陽明年譜訂誤」(筆者の訳による)がある。本書はこれまでの論文を集めたもので、三十三篇よりなっている。「王陽明と余姚」「王陽明弟子雑考」など王陽明に関するもの十二篇、「黄宗義『続紗堂』考弁」など黄宗義に関するもの六篇、他に「朱舜水直系後裔考索」など朱舜水に関するもの、姚江書院や姚江、余姚地域における思想関係の問題や事跡について論じている。著者が余姚在住という地の利を生かして、王陽明や黄宗義ら故郷の先賢に対する顕彰をこめての密着した研究である。